

テーマ

子どもが気持ちよくお手伝いが
できるようにするためには？



エピソード

小学3年生のりょう君とお父さんは、お母さんに頼まれて、近所のスーパーに買い物に行きました。買った物を入れると、買い物袋は3つになりました。お父さんが、「たくさんの買い物を頼まれちゃったなあ。」と言いました。

すると、りょう君は「ぼく、1つ持ってあげるよ。」とお父さんの持っていた買い物袋を受け取り、家に向かって歩き始めました。

ワーク1

荷物を持ってくれた時、あなたなら、りょう君にどんな言葉をかけますか？

ワーク2

その言葉を聞いて、りょう君は、どんな気持ちになるでしょう。これからのりょう君にどんな影響があるでしょう。

話し合いの後に、ワーク3をお書きください

ワーク3

お子さんが気持ちよくお手伝いができるように、あなたはこれから、どんなことをしていきたいですか？

子育てのヒント

ポイント

笑顔で親の気持ちを伝えましょう。

家族が喜ぶ♪ → 自分は家族のためにできることがある
(子ども自身の喜び)

資料

◎「人の役に立つ喜び」がやる気のタネになる

かけがえのない存在である親の役に立つこと

→ 子どもにとって、大変な喜びを感じる

人の役に立つ経験を重ねる事で、「自分は人の役に立つ人間である」という満足感が生まれる。



◎ポジティブな「わたしメッセージ」を伝えよう



×「こんなに重たい荷物を持ってもらってごめんね」

…ネガティブな言葉であり、自分を相手より一段下におくことになる



○「こんなに重たい荷物をもってくれるのね。すごく助かるよ、ありがとう!」

…ポジティブな言葉であり、感謝の言葉は相手を一段上におく心理作用があるだけでなく、感謝をしている自分もハッピーにしてくれる。

◎家庭での親子のかかわりの中で

☆家庭の仕事や役割分担について親子で話をする機会を持ちましょう。

☆今、子どもが実行している家庭内のお手伝いや仕事について見つめ直してみよう。

☆子どもの年齢や家庭の実情に応じて子どもに手伝いや仕事を意図的に与えるように工夫しましょう。

☆子どもが手伝いや仕事をやり遂げた体験を通して、

責任感

達成感

自己有用感

を育てましょう。

お手伝いは、家庭の実情と子どもの年齢に応じてさまざまな工夫ができ、各家庭で無理せず継続してできる、子どものための優れた体験です。